

8月6日 広島

中学3年の夏休み、家族で母方の実家に里帰りした。広島県の江田島という、昔海軍の兵学校が置かれていた地だった。小高い丘の上にある木造の家は、知人から借りている屋敷の離れだった。トイレは汲み取り式で、風呂は五右衛門風呂。都会で生まれた私には、不便が新鮮だった。

近くの海で海水浴や釣りを楽しんだ。濁った海でしか泳いだことのなかった私には、青い深みを見せる海が恐ろしくて、目の前の小島まで泳ぎ着くことができなかった。「深さ」は「高さ」だとこの時実感した。

母が不意にこんな話をした。「神戸に疎開するとき、船から広島の方を振り返ったら、大きな雲が見えた。あれはムクリコクリの雲だったと思う。」

この穏やかな海と空のどこにも、悲しく恐ろしい戦争の傷跡は見つけれない。それが逆に私の心を締めつけた。

18年前、白血病でなくなった母。この日を迎えるたび胸が痛む。

